

発行 宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ7月-

～「川遊びと自然観察」～

7月22日、夏休みに入った最初の日曜は子供たちが主役です。例年人気のイベントですが、今年も自然観察と川遊びで子供たちの歓声が聞こえてきました。当日は仙台では37度という猛暑日でしたが、ここは涼しい風も吹く快適なイベント日和でした。自然観察ではお目当ての昆虫など見つけることができ、川遊びでは生きたイワナを捕まえて串焼きにしました。仙台圏からの参加者も多く見られ、奥山ならではの体験となったようです。



<何かいる～>

科学館案内③ -「こもれびの森」の四季-

～姿を変える「こもれびの森」・・・～

「こもれびの森」は県内最大の県有林で、四季折々の姿を楽しむことができます。科学館はその玄関口に位置しており、前の県道を進むにつれて、手つかずの自然林を感じることができます。クマをはじめとして小動物や野鳥も生息しており、ムササビもいます。こんな「こもれびの森」の春・夏・秋・冬を凝縮した展示パネルです。ご来館の折に、是非見ていただき、四季を楽しんでいただければと思います。



<「こもれびの森」の四季>

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)
の大友さんのコーナーです

“夏のことりたち”

- ①コサメビタキ：
目の前の枝にとまりました。暑さの和らぐ思いです。
- ②アオゲラ幼鳥：
ひだまりの道近くの路上です。脚が弱くまだよく支えられません。
歩いたり、少しだけ飛んだり、やっと親の声のする谷のほうへ飛んでいきました。
(大友)

<①コサメビタキ>



<②アオゲラ幼鳥>



生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

ありがたい虫？

館内にある2本の柳の木は、例年になく賑やかである。木には無数の穴が明けられ、そこから出る樹液に虫たちが群がっている。穴はシロスジカミキリが卵を産み付けるためにあけたもので、器用に横一線に輪を描くように掘ってある。カブト虫やクワガタ虫は容易に捕まえることができるが、シロスジは背中を押さえると大あごを動かしギギと音を出して攻撃してくる。人にとっては、チョー怖い虫でも昆虫たちにとっては、樹液をプレゼントしてくれる大変有り難い虫のようである。(は)

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー



<①シロスジカミキリ>

<②輪状に掘られた跡>



<③クワガタ・キマワリ・アオカナブン・ミヤマ>



まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

～物忘れは別な原因!!... ～ミョウガ(ショウガ科)～

「ミョウガ」が美味しい時期となりました。特に夏場は、冷やっこ、ソーメンなどの薬味としては欠かせないものです。ミョウガは温帯アジア原産で、古い時代に「ショウガ」とともに中国から伝わったとされます。食用にしているコロコロした部分は、「苞(ほう)」で、俗に「つぼみ」と呼ばれています。地下の茎からいきなり出てきて、「苞」の中から繊細な花が咲きます。

さて、このミョウガは染色体の構成が奇数倍数体(5倍体)で、種ができないことになっています。ヒガンバナやジャガも3倍体で種ができません。簡単に言うと、染色体のセットが2で割り切れないので減数分裂がうまくいかず、種ができないということです。しかし、一昨年の秋、何とミョウガに実がつき、種が現れました。何らかの偶然で実をつけたと思われる。「実を結ぶと悪いことが起こる」とか、「ミョウガを食べると物忘れがひどくなる」という俗説があります。しかし、昨年は特に悪いことはなく、ミョウガをたくさん食べ嫌なことも忘れようとしたが、忘れることはできませんでした…。(千葉)

ミョウガの花



ミョウガの実



科学館情報

クマの破壊力

科学館周辺の草木沢地区はクマの目撃情報が多い地区ですが、科学館でも毎年、クマの形跡が見られます。春先から夏にかけての出没が多いように思われます。今年は、5月初旬と7月下旬に、奥の湿性植物園の堅固なベンチがバラバラに破壊されてしまいました。人間では、オノマサカリを使わないと壊せないような破壊力です。どういふ風にしてバラバラにするのか見たい位ですが、力は小型のユンボ並みであることは間違いなさそうです・・・。